

ポーランド 会戦 [2]

ポーランド会戦の作戦概要

三味由紀雄

○ポーランド会戦の作戦経過

ポーランド会戦の作戦経過は、国境線の突破戦闘時期(9月1日～9月5日までの4日間)、戦果拡張時期(9月6日～9月14日の9日間)そしてソ連軍侵攻から掃討作戦時期(9月15日～10月5日の20日間)の3時期に区分される。

ポーランド会戦は、1939年9月1日未明、その第1弾はドイツ空軍のポーランド空軍基地への航空攻撃で開始された。同日5時45分、地上軍は宣戦布告をすることなく、ポーランド国境線の4方面から強力な火力支援と航空支援を受けて侵攻を開始。ポーランド国境警備部隊を撃破し、新編成の自動車化軍団を地上軍の先鋒として、怒濤の如くポーランド国内に進撃を開始した。

ポーランド会戦の諸戦闘は、会戦初期の北部戦線工兵が架けた戦車橋を陸続と渡って前進するドイツIV号戦車。



(東プロシア)の戦闘、北西部戦線(ポメラニア)の戦闘、西部戦線(シレジン)の戦闘、南西部戦線(カルパチア)の戦闘、会戦中期のピオトルクフの戦闘、ビスマ河付近の反攻、会戦後期のワルシャワ攻防戦、東部ポーランドの戦闘及びソ連軍の侵攻の各段階に区分することができる。

○北部戦線(東プロシア)の戦闘:

北部戦線の作戦担当は、北部軍集団隷下のフォン・キュスラー砲兵大将のドイツ第3軍で、開戦時右翼から、第21歩兵軍団、中央は、第1歩兵軍団とヴォートリング歩兵軍団、軍予備第217歩兵師団。左翼には軍集団予備の第206歩兵師団が配置された。

第3軍は、第21歩兵軍団で、ポモージェ軍東部集団を撃破し、西から進出するドイツ第4軍の第19自動車化軍団と連携してポーランド回廊地帯を遮断。同

時に、軍主力の第1歩兵軍団とヴォートリング歩兵軍団は、主攻をモドリン軍の右翼のムラバ防御地区に指向し、ワルシャワへの進出を狙った。

しかし、モドリン軍の防勢体制は意外に強力で、3日間にわたり第3軍は完全に進撃を阻止され、当初の作戦目標である、ナレフ河～ブーク河を渡河ののち、早期にワルシャワ東部地区へ進出することはできなかった。そのため、第3軍は、主攻をモドリン軍の左翼に移し、正面突破から攻勢包囲作戦へ作戦を切り替えた。

不意をつかれたポーランド軍の防御陣地の一部は突破され、東方翼が

包囲されそうになった。そこで、ポーランド軍は完全包囲から逃れるために退却を行い、事後の第3軍の攻勢は順調に展開しはじめた。

○北西部戦線(ポメラニア)の戦闘:

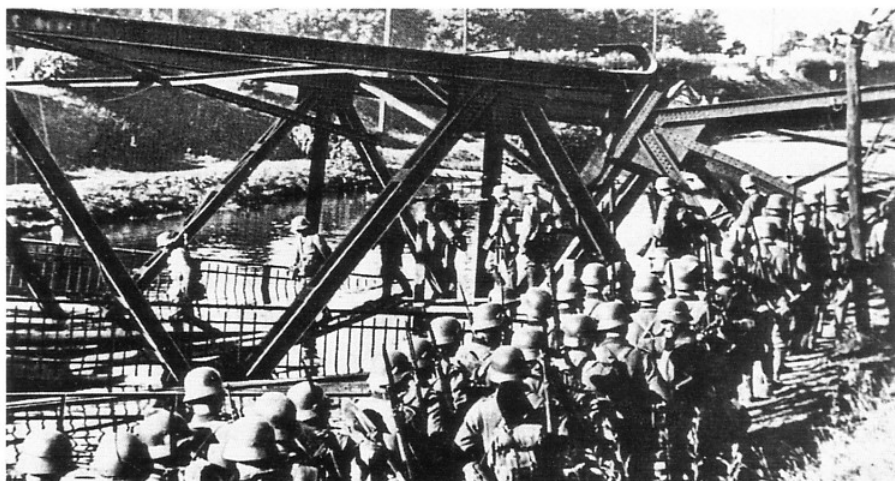
北西部戦線の攻勢作戦部隊は、フォン・ボック上級大将の北部軍集団の主攻であるフォン・クルーゲ上級大将の第4軍で、ポーランド回廊を横断してピスワ河北岸への突進を目論んでいた。

ポメラニア地域からポーランド(ダンチヒ)回廊を突破する攻勢作戦部隊は、右翼に第2歩兵軍団を、左翼に第19自動車化軍団が配置され、さらに第2歩兵軍団の右翼には第3歩兵軍団第50歩兵師団が増強された。

第2歩兵軍団と第19自動車化歩兵軍団は、北西部戦線のポモージェ軍の一部の強烈な反攻を撃退し、9月4日に主力はピスワ河地区に進出。快速ぶりを発揮した第19自動車化軍団は、9月5日、東プロシアか



奪い返したダンチヒで子供達にサービスするドイツ軍の輸送部隊。



ビドゴシチ市内の運河を渡河中のドイツ軍歩兵部隊。ポーランド軍はいたるところで橋梁を爆破し、ドイツの機械化軍の猛進撃をくい止めようとした。

ら攻勢を開始した第3軍の一部との連携に成功、ポーランド回廊を完全に遮断した。この戦闘でポーランド2コ歩兵師団と1コ騎兵旅団が包囲殲滅された。

さらに第4軍の第1国境警備軍団第207歩兵師団は、ダンチヒ自由都市の奪回のために北進し、ポーランド沿岸防御軍の抵抗を排除したのち、ダンチヒ〜グジニャ〜バイボロ〜ヘル軍港地区を攻略した。

○西部戦線(シレジア)および南西部戦線(カルパチア)の戦闘:

西部戦線および南西部戦線での攻勢作戦が、ポーランド会戦の鍵をにぎっていた。

部隊は、フォン・ルントシュテット上級大将の南部軍集団の左翼に配置されたプラスコヴィッツ上級大将の第8軍と中央主攻勢作戦部隊であるフォン・ライヘナウ上級大将の第10軍、および右翼はリスト上級大将の第14軍で構成された。作戦区域は、シレジア・カルパチア地域で、ポーランド会戦の決戦兵力として、新編成の諸兵種連合部隊を始めとして、作戦参加兵力の中で、最も強力な戦闘部隊が配属されている。

軍集団左翼の第8軍には、ポーランド軍主力をピスワ河大湾曲部付近の前面において撃破する主任務を与えられた第10軍の北方翼の援護と、カリシ〜ルージュ地区付近およびポズナニ州に展開が想定されるルージュ軍およびポズナニ軍に対する攻勢作戦の任務が与えられていた。

第8軍は、左翼に第10歩兵軍団、右翼に第13歩兵軍団を並列に配置し、その後方から軍集団予備の第213、第221歩兵師団が続行した。

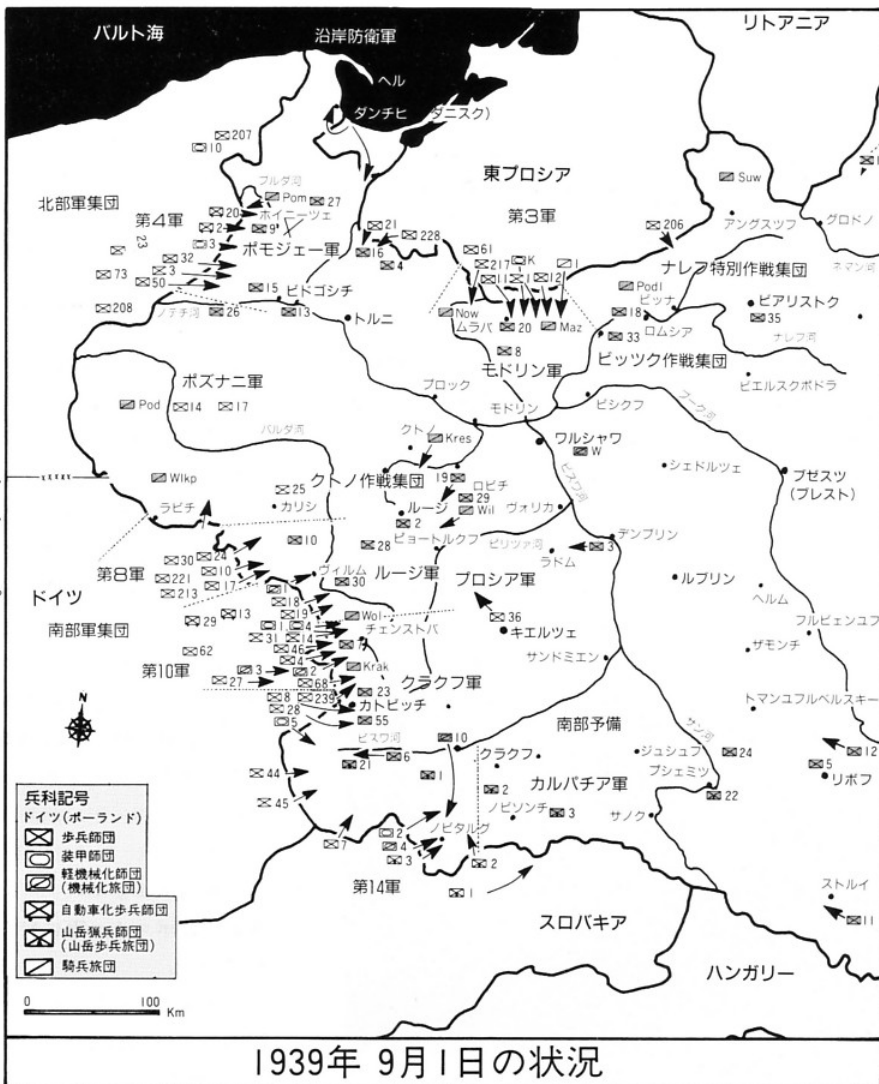
第8軍の攻勢部隊は、ポーランド国境警備部隊との間に激烈な戦闘を展開したが、ようやくその抵抗を排

除した。戦略的に弱体であると判断されたルージュ軍とボズナニ軍の間隙をついて攻勢を開始し、第10軍の左翼を掩護しながら、ルージュ軍の主力を北東のルージュ方面にまたボズナニ軍の左翼部隊を北西部に圧迫したので、その後の攻勢作戦は順調に展開していった。

第10軍には、ポーランド会戦の攻勢主力である南部軍集団の中央主攻として、最大の攻勢戦力が与えられ、西部戦線および南西部戦線の作戦区域を担当していた。軍の作戦部隊の主力は、新たに編成された集成諸兵種連合部隊が中核となっている。攻勢先鋒である第10軍は、両側面を左翼は第8軍、右翼は第14軍の掩護を受けてシレジア国境から発進し、ビスワ河前面でポーランド軍主力部隊との決戦の展開を図って軍の作戦方面をクルチブルグ地域に指向した。第一陣には右翼から第15自動車化軍団、第4歩兵軍団、第16自動車化軍団および第11歩兵軍団を並列に配置した。第二陣には軍予備兵力である第14自動車化軍団を続行させ、さらに軍集団予備の第7歩兵軍団および第62歩兵師団が随行して、強力な機甲集団のクサビを形成していたのである。

開戦時、第15自動車化軍団は機動衝撃力を発揮して国境線を突破し、クラクフ軍直轄のクラクフスカ騎兵旅団(第5機甲大隊第51機甲集隊)を撃破、さらに機械化部隊の快速性をフルに利用し、チェンストバを防御する第7歩兵師団の後方を遮断した。

南部軍集団の最大装甲戦力である第16自動車化軍団は、国境線の前面に配置されたルージュ軍ピオトルクフ集団の機動部隊であるウォリンスカ騎兵旅団(第12機甲大隊第21機甲集隊)に対し、2日間にわたって猛烈な攻撃を加えた。激しい戦闘の末に、騎兵旅団と火



力支援の第4重砲兵連隊第2大隊および第7重機関銃大隊は兵力が半減し、後方への退却を余儀なくされた。しかし、右翼は、クラクフ軍の第7歩兵師団の頑強な抵抗を受けて、攻撃は阻止されていた。

クラクフ軍主力は、第10軍と第14軍の主攻部隊に包囲されたので、第2防御線であるビスワ河とサン河の間に退却を開始した。第7歩兵師団は止むなく降伏し、クラクフ軍とルージュ軍の間には、大きな無防備地帯が生じてしまった。

第10軍は、このチャンスを生かすために、第14、第15および第16自動車化軍団の2コ装甲師団と3コ軽機械化師団をすかさず間隙に投入し、攻撃主軸をポーランド東部のルブリンに指向した。

南部軍集団の右翼を受けもつ第14軍は、スロバキア国境から発進し、西部ガリチア地域のポーランド軍



ポーランド国境付近に終結し、受領命令に耳を傾けるドイツ軍將兵。新戦術を身に着けたこれらの精鋭部隊は、各地でポーランド軍の国境守備隊を翻弄した。

の国境警備部隊を国境付近で殲滅させ、クラクフ軍の主力をクラクフ付近で包囲。そののち、さらに追撃戦を行って、ポーランド軍がビスワ河後方で再編成を行って反撃に転ずることを阻止する任務を与えられていた。これはスロバキア国境のオストラバ〜カルパチア山脈に至る上部シレジア地帯の広大な地域を含んでいる。

第14軍は、攻勢作戦のため、第10軍に隣接する左翼から第8歩兵軍団、第17歩兵軍団、第22自動車化軍団および第18山岳獵兵軍団を配置した。

第8歩兵軍団は軍集団予備である第239歩兵師団の増援を受けて、クラクフ軍シロンスク(シュレジェン)集団の防衛する、上部シュレジェン東部の堅固なカトビーツェ国境要塞地区を突破し、ビスワ河北部をクラクフに向けて進撃した。また、シロンスク集団を救援するために、国境線に前進してきたクラクフ軍直轄第6歩兵師団は、第5装甲師団に攻撃されて撃退された。

第17歩兵軍団は、中央部隊として、スロバキアのモラバ地区から戦闘に加入し、ビスワ河南部からクラクフに対して攻勢を展開した。

第22自動車化軍団は、クラクフ軍の南方翼側を攻撃するため、西部カルパチア山脈のドラーバ河渓谷から戦闘に加入。ノビタルグ防御地帯を攻撃する一方、迎撃のために南下するクラクフ軍唯一の機械化部隊である第10機械化旅団と第6歩兵師団の一部との間に戦闘を展開した。緒戦でクラクフ軍の主力を撃破し敗走するポーランド軍を追撃戦で消耗させたうえで、ドイツ軍は、クラクフに向けて突進した。

第18山岳獵兵軍団は、軍の右翼の攻勢作戦部隊として、スロバキア山岳搜索部隊の支援を受けて、スロバキア・ポーランド国境のビスケ・タトリ(タトラ)山地東部のポプラード河渓谷を通過し、タルヌフ西方地区のボフニャに進出した。これはカルパチア軍第2、第3山岳旅団のノイサンデツ防御線を突破し、クラクフ地区にあるポーランド軍の後方の遮断を目的としていた。

この戦区でポーランド軍が会戦当初から西部ガリチア防衛を放棄したことと、緒戦での戦闘で国境警備部隊が撃破されたためにポーランド軍の反撃のための戦力は消耗していた。第18山岳獵兵軍団と第22自動車化軍団は、計画を手直してリブーフ(リボーフ)およびブルジュムィスル要塞に対する攻撃を行った。

○ピオトルクフ戦闘:

国境付近の戦闘で撃破されたポモージェ軍、ポズナニ軍の残余は、ルージ軍の防御陣地に隣接するバルダ河とピリツァ河の間のあたらしい防御陣地に後退を完



「ワルシャワまで347km」の道標が立つ交差点を過ぎ、前線へ追及するドイツ軍後方段列を、急ぎの用のないオートバイ伝令が見送る。ドイツはこれら二輪車を、自動車化部隊の一角として偵察のみか戦闘にも投入したので早くもポーランドから少なからぬ損耗を数えた。

了するまで現在の陣地を保持する計画であった。しかし第8軍と第10軍の迅速な攻撃でルージュ軍は、ビスワ河へと撃退されていた。

さらに第10軍は、右翼の第4歩兵軍団と増援された軍集団予備の第7歩兵軍団をもってラドム地区で再編成中のプロイセン軍に対する攻撃を計画。左翼の第11歩兵軍団、第14自動車化軍団および第16自動車化軍団は退却するルージュ地区にあるボモジェー軍、ボズナニ軍およびルージュ軍の首都ワルシャワ地区への退却を遮断し、第8軍の攻撃を支援した。

右翼の両歩兵軍団がラドム地区で攻撃する間、第15自動車化軍団は、オパツフーデンプリン間でビスワ河渡河点に前進、さらに北方から第14自動車化軍団が大きく旋回し、ポーランド軍のワルシャワへの退却を完全に遮断した。ここにキェルツェーラドム包囲環が完成したのだ。包囲中央から第8歩兵軍団、右翼から第15自動車化軍団がさらに包囲環を強力に締めあげた。

9月12日までポーランド軍は、頑強な抵抗を続けたのだが強力なドイツ軍の前には屈せざるをえなかった。

ラドム包囲殲滅戦で第10軍は、ポーランド軍7コ師団を包囲殲滅し、捕虜約6万名、火砲143門および戦車38両を捕獲する大戦果をあげた。

第10軍の最強部隊である第16自動車化軍団は、ワルシャワ地区に退却するルージュ軍を追撃した。そしてついにボモジェー軍、ボズナニ軍およびルージュ軍残余部隊が形成する強力なビスワ河防御線を突破し、首都

ポーランド軍によって早々と破壊された、ビスワ河に架かる鉄橋。周到な事前研究を重ねていたドイツ軍はこうした箇所では迂回戦術をとり、その進撃速度を低下させなかった。



ワルシャワ郊外に到達した。

○ビスワ河の反攻:

ポーランド回廊で敗北したボモジェー軍残余とボズナニ地区からのボズナニ軍の10コ歩兵師団と3コ騎兵旅団はビスワ河渡河点のクトノ地区に整然と後退中であつた。

南部軍集団の第10軍がラドム包囲殲滅作戦を継続する間、左翼の攻勢部隊である第8軍は、クトノ地区に後退するポーランド軍の兵力評価を誤り、過少と判断して攻撃した。そのためボズナニ軍の第14、第17、第25歩兵師団およびビーヌルカポルスカ騎兵旅団による予想外の強力な反撃を受けてしまった。

ルージュ地区ではドイツ第8軍第10歩兵軍団第30歩兵師団が撃破され、第24歩兵師団と第13歩兵軍団第



路外に遺棄されたポーランド軍装備のボフォース製37mm対戦車砲とその空になった弾薬車。これで当時のすべてのドイツ軍AFVの装甲は貫徹できた。

ビスワ河をゴムボートで漕渡するドイツ歩兵。すでにガイド・ロープも張られており、緊張感も乏しいことから、ポーランド軍は後退しているようだ。



10、第17歩兵師団は潰走させられたので、第8軍は壊滅の危険に瀕した。しかし第8軍に続行した軍集団予備である第213、第221歩兵師団と第10軍から第11歩兵軍団、第15自動車化軍団および第16自動車化軍団の兵力を転用、大急ぎで防御体制を確立するのに成功した。しかもドイツ軍は、逆にこのピンチをチャンスに転じて、第8軍と第10軍は、新たな攻勢を展開してポーランド軍の退路を遮断してビスワ河包囲殲滅作戦を開始したのである。

9月18日まで激戦が幾度となくつづいたが、ビスワ河から東部方面への突破を企図したポーランド軍は結局壊滅し、この包囲殲滅作戦で第8軍は捕虜8万名、火炮230門、航空機130機、戦車40両を捕獲した。

電撃戦の典型であるビスワ河の戦闘は、つまりドイツ軍とポーランド軍の不規遭遇戦から始まった。幾度かの激戦を経て、イニシアチブを握ったドイツ軍は、ポーランド軍の突破計画を阻止し、最終的には電撃戦の真髄である包囲殲滅作戦によってポーランド軍の主

小休止中の歩兵部隊の脇を、IV号戦車、II号戦車、ソフトスキン車両が轟々と通過してゆく。縦隊後尾に向けて走るオートバイは、行軍計画でも伝達に行くところか。



力を壊滅させたのである。

○ワルシャワ攻防戦:

9月8日の夕方、第10軍の主力がラドム地区でルージュ軍を包囲している間に、第10軍の左翼攻勢作戦部隊である第16自動車化軍団は、ワルシャワ郊外まで進出した。しかしここでは、軍団を支援する継続の歩兵部隊が遅れていたために、ワルシャワ攻略は開始できなかった。

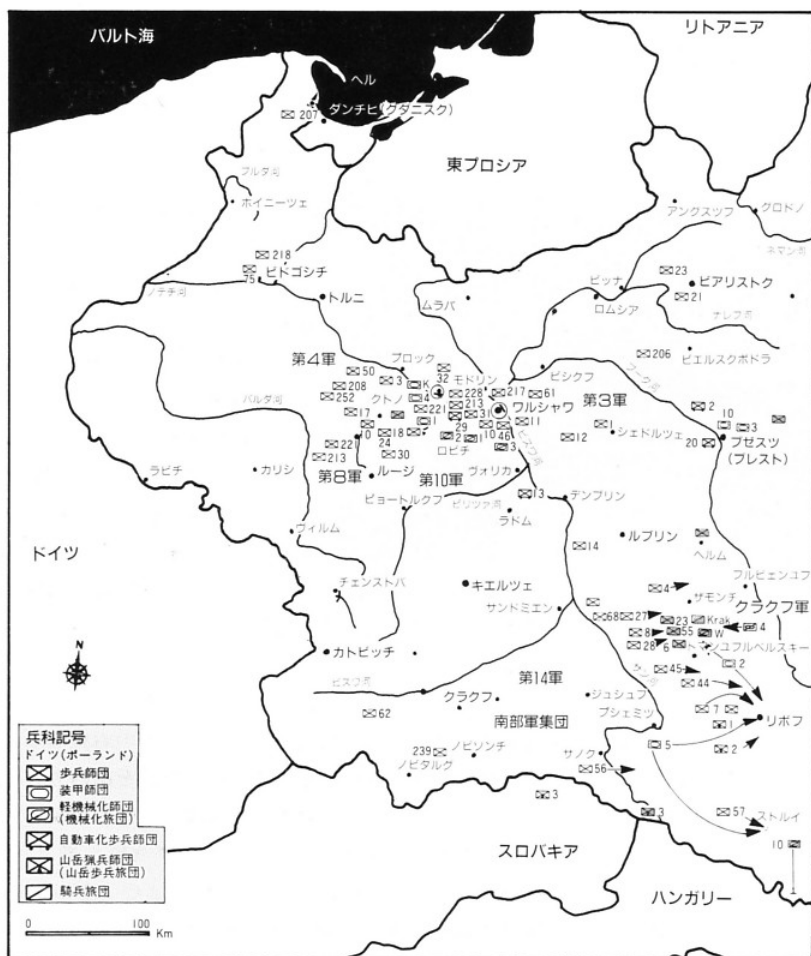
翌9日、第16自動車化軍団は、十分な歩兵戦力の支援がないままワルシャワ市内へ向けて

の攻撃を行ったが、市民を含むワルシャワ防衛部隊の果敢な抵抗で軍団は甚大な損害を受けて、その攻撃は頓挫した。

9月14日には、北方から第3軍が進出し、ナレフ河およびブーク河の戦闘で、モドリチン軍の右翼部隊とウィスゾコフ作戦集団を撃破し、攻撃軸を南西方面に変更してワルシャワに対する包囲環の一部を形成した。

準備期間ののち本格的なワルシャワ攻略作戦は、9月22日から開始された。ビスワ河およびラドム包囲殲滅作戦を完了した第8軍は第3軍および第10軍から抽出した5コ歩兵師団と、2コ軽機械化師団をもって攻撃を開始した。

9月24日～27日にわたり、市の外廊堡壘、防御拠点および重要な軍需施設に対し猛烈な砲空爆撃を行うとともに、2コ歩兵師団を市内に突入させて市街戦を展開した。翌28日、約12万名のワルシャワ防衛部隊は無条件降伏し、ポーランドの首都ワルシャワは、ドイツ軍の手に落ちた。



1939年 9月18日の状況

○東部ポーランドの戦闘とソ連の侵攻:

ポーランド回廊を突破した第19自動車化軍団は、第3軍主攻勢作戦部隊として、9月9日、第21歩兵軍団と並列に、東プロシア国境から発進し、ナレフ特別作戦集団を撃破した。さらに敗走するナレフ特別作戦集団を追撃して、9月17日にはプレスト・リフトスク要塞を攻略、また、ルーマニアおよびハンガリーへと退却するポーランド軍を遮断するため、北進してきた第14軍の一部と連携し、2重包囲を完成させた。

9月17日早朝、ソ連軍は独ソ不可侵条約の秘密協定に基いて、1,300 kmの国境線からナレフ河～サン河の線以東の分割占領のため、ポーランドに侵攻した。

ソ連は、すでに主力をドイツ国境へ引き抜かれたあとの手薄な国境線を突破して、2日間で1,000 kmを疾駆して、政治的分割ラインまで進出をなしとげたのである。

ポーランド軍は、ルーマニア橋頭堡を確保するため、

モドリ軍、プルジイ集団およびその他残余部隊で約10コ師団から成るプルジイ特別作戦集団を編成した。

しかし時すでに遅く、27日のワルシャワ防衛軍、28日のモドリ軍および10月1日のヘル沿岸防衛軍の降伏に続いて、ついには、10月6日にプルジイ特別作戦集団も戦闘を停止した。

壊滅したポーランド軍のうち、陸軍と空軍の将兵約3万名はルーマニアに、約6万名はハンガリーに亡命。さらにソ連軍により約1万5千名はリトアニア及びラトビア国境に追いつめられた。

本会戦でのポーランド軍の損失は、各種部隊66,300、戦死133,700名、捕虜は787,000名(ドイツ軍に587,000名、ソ連軍に200,000名)であった。

開戦以来、35日間という短期間でポーランド会戦は終結し、この間、ドイツ軍の損失は、戦死8,082名、戦傷27,279名、行方不明27,279名、戦車217両(I号89両、

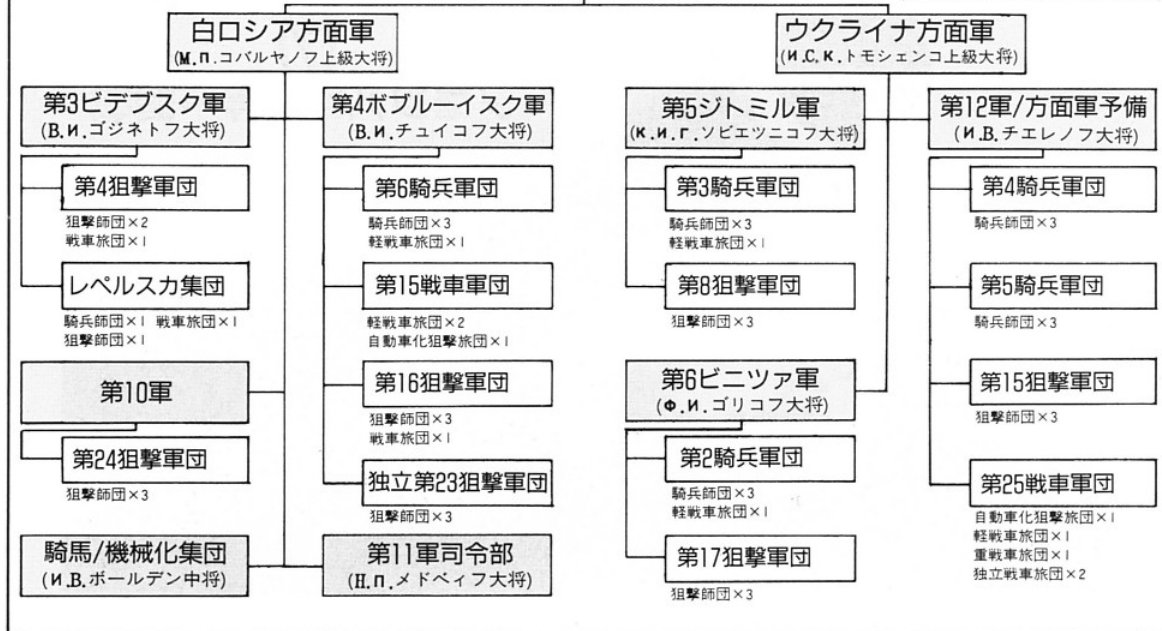
II号78両、III号26両、IV号19両および35t6両)。各種装甲車両319両、火砲/迫撃砲195門、トラック6,046両および自動2輪車(側車付含む)5,538両であった。ドイツ軍に投降したポーランド兵士。虜囚に共通の惨めなりであるが、表情はなぜか明るい。



ソ連軍戦闘序列

陸軍最高司令部

6月号109ページのポーランド軍戦闘序列表のプロセイン軍は正しくはプロイセン軍の誤りでした。訂正しておわびいたします。



○ソ連侵攻作戦部隊の概要

1939年9月17日、ノモンハンで関東軍との停戦を急ぎ、兵力を西送しおえたソ連は、ポーランド・ソ連不可侵条約を一方的に破棄し、自国のその權益、ポーランド領内のウクライナ人と白ロシア人の權益を保護するという理由で、ポーランドに侵攻を開始した。本作戦に参加したソ連軍部隊は、白ロシア方面軍(白ロシア軍管区)とウクライナ方面軍(ウクライナ軍管区)に所属する部隊であり、その戦闘序列は、表2のとおりである。

ポーランドの分割



1939年9月28日、ドイツ・ソ連との第5回ポーランド分割交渉の結果、ドイツは、ポーランド工業地帯を含む117,557km²を保護領として、ポーランド総督が管轄

ソ連は、東部ポーランドを含む残り123,893km²を併合しポーランドはヨーロッパの地図から完全に抹消され、ポーランド人は、被占領国民として、その自由を奪われ、第2次世界大戦終結まで苦難の道を歩むこととなる。

ブレスト・リトフスク市内を並んで行進するソ連のT-26戦車とドイツのオートバイ部隊。かくしてバイは分け取られた。

